

徳島発 グリーン ビジネス

④

業用で、発電された電力ではない。リチウムイオンは同センターなどが開発した「多機能防災システム」内のリチウムイオン電池に蓄電される。LEDを使った夜間照明や、災害情報などの表示機能を備えた自動販売機の動力源となる。

「家庭用の小型パネルではなく、発電量の大きい産業用パネルからの蓄電に成功したのは大きな進歩」と工技センターの酒井宣言主任。災害時の対応拠点となる公共施設などで、既設の大型太陽光パネルを活用しての蓄電普及に期待を掛ける。

一口に蓄電といっても、発電設備と蓄電池をつなぐにはいいというもの。初めて製作したのは、災害時の非常用電源機能

はじめたのは2008年のことだった。

県立工業技術センター(徳島市)の玄関前に取り付けられた大型の太陽光パネル。出力250ワットの蓄電技術を開発した。

産学官で蓄電技術開発

と電気自動車(EV)の急速充電器を組み合わせた「多機能防災EVスタンド」。国内最大規模のリチウムイオン電池の生産工場であるパナソニックグループエナジー社三洋電機徳島工場が全面的に協力。徳島大学大学院シオテクノサイエンス研究部長の大西徳生教授と学生が中心となって、試作を進めた。

太陽光パネルでつくられた電力を家庭用電源に出力する無停電電源など、重要な装置は全て学生たちの手作り。藤崎電機(阿南市)が蓄電システム全体を監視、制御するソフトを開発して完成させた。

このEVスタンドに改



工技センターに設置された太陽光パネル。右奥に見える金属製ロッカー内に蓄電システムが収納されている—徳島市

た。

産業用電気制御機器の販売を手掛けるテクノスモトキ(徳島市)は停電時、自動的に補助電源に切り替わる家庭向けの蓄電システムなどを研究。元木敏美社長は「ゆくゆくは電力会社に採用を促して広く普及させたい」と話す。藤崎電機は工技センターと共同で、太陽光発電だけでなく風力、小水力発電にも対応する「ハイブリッド型コンバーター」を開発。設備機器販売の大豊産業(高松市)は徳島支店を拠点に、多機能防災システムの販売を進めている。

良を加えた「多機能防災システム」は、現在も県立南部防災館(海陽町)で稼働している。平時は夜間照明や情報発信用のLEDディスプレイに電気を供給。災害時は携帯

12年、県はこれらの技術をビジネスにつなげてもらおうと、県内企業への技術移転に乗り出した。

巨大地震の発生が懸念される中、徳島発の災害対応ビジネスが着々と成果を上げつつあるようだ。(経済取材班)

防災分野に大きな商機

第2部 省エネ